

とまと薬局

助川健

代表



03-6806-8933

tomatopharmacy-grp.com

東京都荒川区西日暮里2丁目26-12  
ガーネットビル1階

### ビジョン

介護施設に寄り添う最高のパートナー  
施設運営に寄り添ったサービスを提供することにより、介護施設のパートナー薬局として  
確固たる地位を確立します。

とまと薬局グループを率いる助川健代表は、商売人の父と薬局を営む叔母の姿に影響を受け、薬剤師として独立の道を歩んできました。30歳で一号店を開業して以来、「3つの笑顔」を理念に掲げ、地域に必要とされる薬局づくりを進めています。なかでも荒川区の日暮里店では、日暮里・西日暮里エリアを中心に、土日・祝日を含めた365日営業と訪問薬局としての在宅医療対応に注力。麻薬管理や無菌調剤、24時間の緊急電話対応など、地域の患者さんと医療・介護関係者を支える体制を整えています。助川健代表の歩みと、とまと薬局が描くこれからの薬局像に迫ります(2026年5月取材)。

## 日暮里・西日暮里の訪問薬局として、土日営業・365日対応に取り組む理由

訪問薬局に注力し始めたきっかけは何だったのでしょうか。

直接のきっかけは、4店舗目を出店した際に門前の先生から「近くの施設を診るから協力してほしい」と声をかけられたことでした。しかし同時に、中小の薬局として生き残るための戦略的な判断も大きかったですね。

経営を続ける中で、大手チェーンの圧倒的な規模とリソースを目の当たりにしてきました。彼らは、その組織力を活かして病院前の好立地を確保したり、自ら医療ビルを建設したりといった、大規模な投資を伴う戦略的な店舗展開を得意としています。

私たちのような規模の薬局が、同じ手法で正面から向き合っても、そのスピードや資金力に応えるには限界があります。

そこで目を向けたのが、先ほどもお話した診療報酬改定です。

その中で国が在宅医療を強く推進しているにもかかわらず、当時はまだ多くの薬局が従来の外来調剤に重きを置いており、本気で在宅に取り組むところは限られていました。

だからこそ、大手チェーンとは異なるアプローチで、手のかかる在宅医療に本気で取り組むことこそが、私たちが地域で生き残るための唯一の活路だと確信したのです。

荒川区の日暮里店の特長や、取り組んでいる体制について教えてください。

荒川区にある日暮里店は、私たちの「在宅医療にける覚悟」をそのまま形にしたような店舗です。一番の大きな特徴は、土日や祝日も含めて365日、一日も休みなく店を開けていることです。というのも、在宅医療を本気でやるのであれば、「今日は休みだから対応できません」ではなく、患者さんを支える



意識が重要で、休日も含めた継続的な対応責任が伴うと思っています。

たとえ世間がお休みの日であっても、緊急時には24時間体制で電話を受けますし、必要があれば薬剤師がしっかりとお応えできる体制を整えています。

また、設備などのハード面もしっかりと作り込んでいます。医療用麻薬の取り扱いや無菌調剤ができる環境を完備しているのです。病院と同じような高度なケアを必要とする、重症度の高い患者さんのお手伝いも可能です。

現在は日暮里・西日暮里エリアを拠点として、住み慣れた個人のお宅から介護施設まで、幅広く訪問に伺っています。

## 安定したサービスを提供するための工夫はありますか。

サービスを安定させる上でこだわっているのは、あえて薬剤師を複数名配置する「2人薬剤師体制」です。というのも、1人が在宅医療で外に出ている場合、もう1人が店舗にしっかり残っていれば、急なご相談にもすぐに対応できて、不測の事態にも強い組織になりますよね。

そしてもう一つ、私たちが一番大切にしていることは「処方箋を断らないこと」です。患者さんは「ここなら何とかしてくれる」と期待して処方箋を持ってきてくださるわけですから、そこでお断りしてしまうのは違うと思っています。

たとえすぐに薬をご用意できないケースでも、申し訳ないという気持ちを持って最善の提案を尽くすよう、現場には徹底させています。

こういったなんとかして想いに応えようとする姿勢の積み重ねが、地域の先生方やケアマネジャーの皆様からの信頼に繋がっていくと信じています。



## 訪問薬局の枠を超え、オンライン診療と美容医療で薬剤師の可能性を広げる

### 次なる展開として、薬剤師が主役となるオンライン診療の形を模索されているそうですね。

はい。これまで薬局は、特定のクリニックのすぐそばで処方箋を待つというスタイルが一般的でしたが、そのモデルが誕生してから30~40年が経ち、今まさに大きな転換期を迎えていると感じています。

時代が変わる中で、薬局がただ「待つ」のではなく、もっと能動的に患者さんと関わっていくべきではないか。そう考えて辿り着いたのが、薬剤師がファーストタッチを担うオンライン診療です。

具体的には、まず薬剤師が患者さんと対話し、悩みや体調を詳しく聞き取るプロファイリングから始めます。その内容をもとに、薬のスペシャリストとしての知見を活かして、医師へ「この患者さんにはこの処方箋が適しているのではないか」と提案を行う仕組みです。

薬剤師は何年も薬学を学んできた専門家です。例えば睡眠薬一つとっても、医師以上に深い知識を持っていることも少なくありません。単に指示通りに調剤するだけでなく…



続きはQRコードからアクセスしてください → → →

